

Ⅲ 実践記録

1 算数科（複式授業）

算数科学習指導案

指導者 岩渕きよ美

1. 日時 平成21年12月9日（水） 第5限

2. 場所 1・2年教室

3. 学年 1年生 男子2名 女子3名 計5名)
2年生 男子3名 計3名) 計8名

第1学年

4. 単元名 「おいほう すくないほう」

5. 単元目標

求大・求小の場面を理解し、問題を解くことができる。

〔数学的な考え方〕 たし算、ひき算の意味（使い方）について考え方を深める。

〔表現・処理〕 求大・求小の問題を解くことができる。

6. 指導にあたって

子どもたちは、これまでに「繰り上がりのないたし算」「繰り下がりのないひき算」「3つの数の計算」「繰り上がりのあるたし算」「繰り下がりのあるひき算」などを学習してきている。本単元では文章問題に出てくる数字を構造的に捉える力が大切なことになっていくと考える。数量をしっかりとイメージで捉え、操作していく力を養っていくことが1年生から大切な学習となる。じっくり問題文を読ませ、数をイメージしながら2量の関係を捉えることをポイントにしていかなければならない。計算はたし算とひき算であるが、なぜたし算を使うのか、なぜひき算を使うのかをしっかりと子どものものにするために半具体物などを操作させ、その操作から演算を決定させていきたい。この学習経験が2年生でのテープ図などにつながっているので大切に扱っていきたい。

1年生は、算数の学習では個人差はあるが前向きに取り組もうとする。女子は指示を理解しすすめていけるが、男子は指示を聞いても自分のペースでしか進めていけないことが多い。これまでの文章問題の学習では、問題文を読み、題意をつかみ、具体物などを使いながら絵や図に書き表してきた。男子は場面理解や数量関係を把握することが難しく、1名は自力で考えることが大変なため支援が必要である。学習は日直が中心となって簡単な学習メニューにそって進めていこうとがんばっている。児童はこれまで合併、増加などのたし算や求残、求差などのひき算を学習してきている。どの学習においても、具体的な操

作を多く取り入れてきた。その後は、計算カードを繰り返し行ってきた成果が見られてきている。また、文章問題は自分で問題を解く手だてとして、分かっていることや聞かれていることに線を引いたり、大切な言葉をおさえたりしてからノートやホワイトボードに絵、図、式、答え、考え方を書くようにしている。自分の考え方をまとめて書くことは難しいが、友だちの書き方など参考にしながら少しずつ書く力を身に付けているところである。

初めの頃、緊張して式や答えは言えるが自分の考えを発表することが苦手であった。声が小さくなることもあるが、書いたものであれば自分の考えを発表できるようになってきた。

しかし、発表はするが人の意見を聞けていないことがある。自分の考えと比べて聞くことができない子が多い。自分の考えとどこが同じで、どこが違うのかなどしっかり聞くように指導している最中である。本校の研究主題「生き生きと学び、みんなとともに成長し合う子をめざして ～思考力・表現力を高めるために～」である。具体物を使った操作活動を通して、自分の考えをまとめ、発表し合うことからそれらの力がつくと考えている。

本時はこれまで学習してきた増加や合併などの順思考における数量の関係とは異なるのでさし絵と問題文とを対応させながら、求大の関係をとらえることに視点をあてて考えることができるようにする。そのためには、数図ブロックにおきかえたり、○の図にかかせたりして数量の関係を具体的にとらえさせることを大切にする。そして、「～は～より多い。」という関係において、どちらが多いのかをはっきりと説明させる必要がある。その中で、式をかいた児童には「なぜ、そのような式になったのか。」という意味について説明できるように留意していきたい。

7. 単元の指導計画・評価（全2時間）

次	時	目標	学習活動	評価規準
1	1	・求大（大きい方を求める）の問題を解くことができる。	・問題場面をとらえる。 ・考え方を発表し、求大の問題の解き方をまとめる。	・数図ブロックを使って2人の芽の数がどうなっているかを並べようとしている。 (考) ・計算式を考え、計算できる。(表)
	2	・求小（小さい方）の問題を解くことができる。	・問題場面をとらえる。 ・考え方を発表し、求小の問題の解き方をまとめる。	・問題場면을数図ブロックを使って、具体的に考える。(考) ・計算式を考え、計算できる。(表)